

2025/10/8

中経論壇

経営支援NPOクラブ監事
川上 博史



自民党は、昨年10月の衆院選および今年7月の参院選で過半数を割り込み、その責任をとって石破首相は辞任し、新たに高市早苗氏が新総裁となった。ただ、誰が選ばれるにせよ、わが国を取り巻く環境は、国際秩序の流動化、米中対立の激化、台湾有事など国際的な課題と、超少子高齢化・人口減少による深刻な労働力不足と社会保障費の増大、また気候変動による自然災害の激甚化や経済的活力の低下、空き家問題など、国内

的な課題が山積している。高市総裁には、こうした内外の諸問題に真正面から向き合い、国民に対して将来に向けた明るい希望と期待を抱かせる具体的なシナリオを示してもらいたい。

日本を取り巻く多くの課題がある中で、最近、私が特に気にしているのは、参院選の選挙期間中、トランプ政権の移民排斥に倣うかのように外国人排斥を声高に訴え、SNSでの拡散効果もあって、議席を大幅に伸ばした党があったことである。こうした主張は、ある部分的な現象をあたかも全体であるかのように誇

行き過ぎた排外主義に懸念

張るもので、決して受け入れられるものではない。確かに外国人労働者の中には法律違反を犯し、事故や暴行、傷害、強盗など犯罪につながる事件を引き起こし、ニュースで度々報道されることがある。こうした個々の犯罪は、現行の法律でしっかりと取り締まると共に、外国人による不動産の購入など、将来リスクが予想される事案については新たに法律を制定するなど、適正な対応を進めるべきだと思う。

しかしながら、「外国人労働者は悪」と短絡的に決め、外国人との壁を取り除き、世界から注目を集めるような、外国人との共生社会のプロトタイプを構築することである。

今、日本人に求められているのは、分断でなく共生であり、対立でなく調和を図ることとで、外国人との壁を取り除き、世界から注目を集めるような、外国人との共生社会のプロトタイプを構築することである。

模範となる共生社会の実現を